

## ■帯広畜産大が1部残留。

アメリカンフットボールの第50回北海道学生選手権最終節は10月27日、江別市の札幌学院大グラウンドで1、2部入れ替え戦を行い、帯広畜産大（1部6位）が30-6で北海道科学大（2部1位）を下し、1部残留を決めた。13年ぶりの1部復帰を目指した北海道科学大だったが、及ばなかった。

試合は帯広畜産大が第1Q11分、RB石村周也（4年、札幌清田高）の1ヤードダイブで7-0と先制。第2Q10分にWR/K桂田陽向（3年、福井・若狭高）の34ヤードFGで加点し、10-0で前半を折り返した。帯広畜産大は後半も攻撃を緩めず、第3Q7分にRB石村が4ヤードランでこの日2本目のTDを奪い17-0、同9分と第4Q4分にはQB外崎智文（4年、大野農業高）がWR佐々響己（3年、愛知・南山高）へ4ヤード、WR/K桂田へ65ヤードのTDパスを投じて30-6とリードを広げた。守備でも、DB兼任のQB外崎が第2Qに、同じくDB兼任のWR/K桂田が第3Qに、OL/LB卯野優翔（3年、兵庫・洲本高）が第4Qにそれぞれパスインターセプトを決めて、北海道科学大の反撃を封じた。



北海道科学大は第3Q8分、QB藤川拓斗（4年、浦河高）からWR今野裕太（2年、天塩高）への15ヤードパスで6-17と追いつけたが、その後は好機に喫したパスインターセプトが痛かった。

帯広畜産大の須田泰地コーチは「リーグ戦で課題だったオフェンスが機能した。ランが出て、ロングパスも決まった」と振り返りながら「入れ替え戦を経験した悔しさをバネに来年は頑張ってもらいたい」と選手たちに期待した。QB外崎主将も「後輩たちは身体能力が高いので、ベストイレブンWR桂田を生かせるよう、チーム力を上げてほしい」とエールを送った。（広報委員 塚田博）